

横浜市立南戸塚中学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

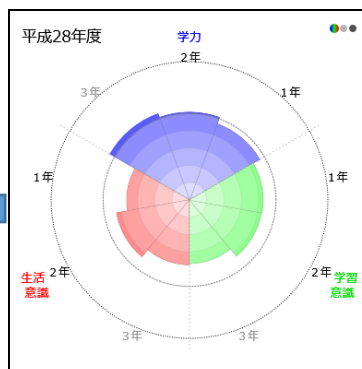
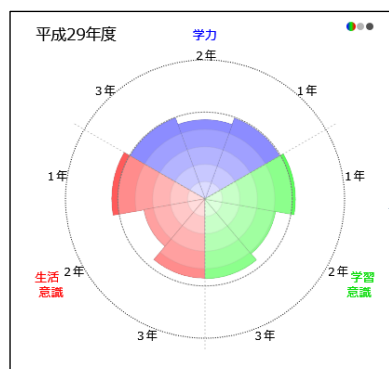
学校経営中期取組目標	
○ 「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行い、「誰もが・安心して・豊かに」生活できる学校づくりを目指します。	
・ 生徒、保護者、地域が参画する学校評価を実施し、根拠に基づいた改善を重ねます。	
・ 生命を大切にすることを第一に考えた、安心、安全な学校づくりを目指します。(体)	
・ いま求められる力を理解し、参加型の授業を実践しつつ学力向上に努めます。(知)	
・ 主体的な活動を支援し、自尊感情を高めます。(徳)	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	・ 学習の基礎・基本を身につけ、それらをもとに対話的に活用・探究していく学習力を培うための意思を育む。	・ 研究部を中心に、生徒の実態を把握した根拠に基づく指導を行う。 ・ 授業で目指すものと「評価の仕方」を明確にし授業に臨むことと、「振り返り」をさせることで、次につながる学力の向上を目指す。
担当	研究部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



新3年生は、横浜市の平均よりやや低い状況である。国語科では昨年度より意識が高まり、学力の向上がみられた。数学では意識の向上を目指したい。英語では知識力の伸びが見られる。理科・社会は知識の習得と活用に力を入れた。新2年生は、特に数学の学力が高い。全教科の学習意識が高いので、これからも向上が期待

できる。毎時の指導目標と評価の方法を明確にして授業に臨むことを今まで以上に定着させ、生徒の意欲をさらに高める授業をおこなうなど、学校全体での研修を今後も進めていきたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：新3年は、知識・理解の力が向上した。読解力を高めるための授業を展開したい。
- 社会科：新3年は地理的分野の学力低下がみられる。2年はさらに思考力を高めたい。
- 数学科：新2, 3年ともに市の平均を上回る力がついてきた。さらに意識を高める工夫が必要。
- 理 科：新2, 3年ともに学力が向上した。学習意識は平均的。意識を高める工夫が必要。
- 英語科：学力と英語を実生活に生かそうとする意識がともに低い傾向があるので、基礎学力の定着を目指し、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させる機会をより一層増やす必要がある。
- 音楽科：新2・3年生ともに勉強が好きで、かつその大切さを感じている生徒が多い。
- 美術科：新2, 3年ともに作業には真面目に取り組む、技能は年々低下傾向である。生活経験が少ないのが一因と思われる。
- 保健体育科：新3年生の学習意欲が低い傾向にある。新2年生の学習意欲は高いが、体力レベルは高くない。授業でも体力レベルを上げていく工夫が必要である。
- 技術・家庭科：作業することは好きな生徒もいるが、技能が低下しているように思われる。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

国語科

- ・生徒一人ひとりが主体的に考え、それを発言・発表する場をこれまで以上に設ける。
- ・3年間を通じて、副教材の漢字ワークを有効に利用し、漢字の修得に努めさせる。

社会科

- ・授業の中で、生徒が自ら考え、対話的な活動を通して表現する場を多く設け、思考・判断・表現の力を伸ばす。
- ・3年生では、公民的分野の授業に関連付け、既習の知識である地理的、歴史的分野の定着を図り、基礎的な知識の定着を目指す。

数学科

- ・1, 2年では少人数指導（チーム・ティーチング）の利点をいかし、授業中のやり取りの中で、一人ひとりの生徒に適切な評価と改善のための手だてを行う。
- ・学習意欲を向上させるために、発問に工夫をこらし、生徒の達成感を引き出す。

理科

- ・授業の終末時にグループワークを取り入れることで、基礎基本の学力向上を目指す。
- ・分野ごとに演習問題をおこなうことで、基礎学力の定着を図る。また、実験後の協議・発表を通して意欲・思考力の向上を目指す。

音楽科

- ・歌唱や器楽の基本的な技能を身につけ、音楽のもつ美しさやよさを感じ取る。
- ・歌唱や器楽の演奏において、主体的に音楽表現を工夫してよりよい演奏を迫及する。
- ・鑑賞の活動において、音楽を形作っている要素に着目してその曲のよさを味わう。

美術科

- ・各学年、課題のねらいと目標を設定し、それぞれの生徒の進度に合わせて指導できるように環境整備を含めてわかりやすい授業を目指す。
- ・鑑賞の授業を充実させるためにICTを活用し、興味をもって取り組める授業を展開する。

技術・家庭科

- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

英語科

- ・コミュニケーション能力の向上を目指した、会話中心のアクティビティーを行う。
- ・SEPRO（スーパーイングリッシュプログラム）を実施する。
- ・「話す、聞く」から「読む、書く」につなげることができる取り組みを行う。

特別活動

- ・実践的な活動を通して自ら学び、考え、行動する力を育てる。
- ・挨拶を始め話し合い活動などを推進し、コミュニケーションの力を伸ばす。
- ・自己理解を深め、適性に応じた進路を選ぶ力を育てる。

総合的な学習の時間

- ・横断的、統合的な学習を通して、他者や社会と関わる力を育てる。（特に活動の中でのやり取りを大切にする）
- ・言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の育成に努める。

個別支援学級

- ・個別の指導計画に基づき、一人ひとりに応じた基礎基本が身につくよう、『繰り返し学習』を徹底する。
- ・交流及び共同学習や豊かな体験学習を通して、自分を取り巻く人々や環境と関わり、自立と社会参加の態度を育てる。

保健体育科は「体育健康プラン」に、
道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載